

令和4年度事業計画（2022）

事業実施

- *官民連携まちなか再生推進事業：第3期中心市街地活性化計画に伴う事業の推進（町並み保存、まちなか再生、エリアプラットホーム構築と未来ビジョンの策定など）（国土交通省補助金事業）
- *倉敷シティキャンパスプロジェクト（トヨタ財団助成金）
- *H U L倉敷の取り組み
- *持続可能な観光ガイドライン取り組み
- *「町家deクラス2022」（備中町並みネットワーク主催）
- *新事務所移転
- *都市環境フィールドワーク・マニュアルづくり
- *町並み保全の森づくり
- *歴史的町並みの保存に関する研究・調査・啓発と提言
- *町家・町並みの保存・再生（総合的なまちづくり、組織づくり、整備相談など、伝建暮らしのガイドブック作成支援）
- *地域資産の利活用「宮坂町の家」「御坂の家」「Y家」、川上家、宮坂町の長屋など
- *備中町並みネットワーク（流域町並み調査および支援・高梁川流域の文化的景観）
- *中心市街地の町家悉皆調査継続
- *教育機関との協働事業
（川崎医療福祉大学、ノートルダム清心女子大学、就実大学など県内大学、倉敷市内高等学校）
- *Kurashikimapsプロジェクトの活用

《展開》

昨年度から取り組んで来た幾つかのプログラムをステップアップして引き続き取り組む。官民連携まちなか再生推進事業では2年間で歴史と文化・まちなか再生のプラットフォームを作り、そこを中心に未来ビジョンを策定する。また人材育成と建築物の利活用、社会実験などを実施して、エリア活性化の拠点づくりを目指す。倉敷シティキャンパスプロジェクトではマップ作りやイベントを実施し市内外の学生交流拠点を作る。

H U L倉敷は講演会、シンポジウム、レイヤー調査などを実施し協議会の立ち上げを目指す。持続可能な観光ガイドラインでは地域の現状調査とプラットホーム構築を進める。

「町家deクラス2022」では若い世代向けのプログラム開発と、都市環境フィールドワークのプログラムに挑戦する。

町家町並み保全の大きな課題である資材の確保に向けて、備中地域での森づくりに協力すべく仕組みづくりに取り組む。

教育機関とは今まで以上に、地域課題を共有する場を作り、意見、提案を積極的に事業に取り入れる事を目指す。

地域コミュニティなどと連携して高齢者支援のみならず支援を必要とする住民の課題解決を図るためのしくみづくりを支援する。

減災や日常の町家の防火・耐震化促進活動を展開する。

このような活動を継続推進するため、事務局機能の充実と、地域住民とのコミュニケーションを図りながら、会員、地域住民、各種団体、教育機関や企業、行政との協働で作業を進める。

- 1) 広報と情報提供
 - ・くらしき手帖の発行・ホームページ、ブログ、facebookなど情報発信。メールマガジンの発信とメディアへの情報提供
 - ・講演会、展覧会などでのパネル展示
- 2) まちづくり活動の企画、協力、連携など
 - ・中心市街地活性化協議会への参加しプロジェクトを推進する
 - ・備中町並みネットワーク参加し、備中町並みゼミ、「町家deクラス2022」の実施
 - ・まち歩きなどの企画・各種フォーラム、講演会、協議会に参加し、発表
 - ・教育機関と連携して町家改修、公共空間の整備、コミュニティの課題解決
 - ・倉敷東社会福祉協議会参加
 - ・全国まち並み保存連盟。令和4年6月：第45回全国町並みゼミ新潟大会へ参加
 - ・高梁川流域学校への協力
 - ・伝建条例の改正、保存地区周辺及び市内町家の保存にかかわる条例制定を進める
- 3) 地域資産の再生利活用
 - ・「宮坂町の家」「Y家」利活用
 - ・「御坂の家」事業継続
 - ・新事務所の整備
 - ・倉敷トワイライトホーム運営協力（川崎医療福祉大学）
 - ・中心市街地町家調査継続
 - ・未利用町家（空き家）の利活用対策と支援
 - ・大学、高校他教育機関との連携によるまちづくり
- 4) 事務局体制
 - ・各種調査、相談業務、保存活動など
 - ・財源確保のための補助金等への申請
- 5) その他事業推進のための活動等

《組織の運営》

1. 理事会の開催 毎月1回 第1金曜日 10:00～
2. プロジェクトの推進 各種事業の運営管理を徹底するため理事を中心に部会運営を進め、必要に応じて各種プロジェクトチームを構成し事業の進行を図る。